第４回　県政運営評価戦略会議　会議録

１　日時　　平成２８年８月３１日（水）　午後１時３０分～午後４時
２　会場　　県庁１０階　大会議室
３　出席者　委員

阿部　頼孝（敬称略，以下同じ）	
石田　和之	
植田　美恵子	
近藤　明子	
坂本　真理子	
佐和　良佳	
南波　浩史	
橋本　延子	
浜口　伸一	
藤原　学	
桝本　久実	

県

朝日	隆之	監察局長
戸根	秀孝	危機管理部副部長
川村	章二	政策創造部副部長
岡田	芳宏	経営戦略部副部長
手塚	俊明	県民環境部副部長
大西	英治	保健福祉部副部長
岡田	徹	商工労働観光部副部長
相田	芳仁	農林水産部副部長
楠本	正博	県土整備部副部長
新居	正志	南部総合県民局副局長
岸本	裕治	西部総合県民局副局長
木下	慎次	教育委員会副教育長
石井	裕通	企業局副局長
田中	功	警務部警務課企画官
近藤	理恵	監察局次長
窪	裕司	評価検査課長

ほか

（会議次第）
１　開　会
２　議　事
（１）「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価について
３　閉　会

（議事項目と概要）
１　「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価方法説明（資料１）
２　「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価方法の概要説明（資料２）
３　評価案の説明，質疑，評価結果の決定（以下，概要は別に掲げる）（資料３）

■議事１：「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価について

（会長）
議事に先立って「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」における評価の方法について，事務局から説明をお願いした後，「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価を行いたいと思います。

（事務局）
「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価方法について説明（資料１）

（会長）
ありがとうございました。それでは「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価を行いたいと思います。初めに，評価の参考とするため，地方創生推進課から総合戦略の概要について御説明を頂きたいと思います。

（地方創生推進課）
「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」の概要説明

（会長）
ありがとうございました。それでは，評価案を作成いただきましたＡ委員から御説明をお願いします。

（Ａ委員）
それでは，総合戦略の評価案を説明させていただきます。時間の関係もありますので，簡潔に説明したいと思います。
まず基本目標１の評価シートの２ページ，番号２番につきましては，数値目標であるとくしま農林漁家民宿数が目標を上回っていることから，平成27年度の進捗状況は良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ａ評価といたしました。
同じく２ページの番号４番につきましては，数値目標であるとくしまジョブステーションを活用した就職率，及びプロフェッショナル人材の正規雇用数が目標数を大きく下回っていることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｃ評価としました。取組内容や今後の方針について，担当部局から補足説明がある場合はお願いしたいと思います。
４ページの番号７番につきましては，数値目標である「成長分野」関連企業の本社機能誘致数が０社であることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しまし

た。その上で，新たな具体的な取組みが見られないことから，Ｃ評価といたしました。取組内容や今後の方針について，担当部局から補足説明がある場合はお願いしたいと思います。

続きまして，６ページの番号12番につきましては，数値目標である県内大学生等の県内就職率が目標を下回っており，平成25年度の実績よりも減少していることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。しかしながら，今後の取組みとして徳島県奨学金返納支援制度の見直しなど，積極的な姿勢が見られることから，Ｂ評価としました。

次は，基本目標２「地域における仕事づくり」のところですけれども，４ページの番号20番のところですが，評価の時点で実績値が判明している指標はありませんが，取組内容を見ると，最新の実績値として平成26年度の実績値が記載されています。それによると，輸出企業数は減っているものの，輸出額は254億円と大きく目標を上回っています。これらから一定の成果が上がっているとして，平成27年度の進捗状況は概ね良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｂ評価といたしました。

５ページの番号22番につきましては，評価の時点で実績値が判明している指標はありませんが，取組内容を見ると一定の成果が上がっていることから，平成27年度の進捗状況は概ね良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｂ評価としました。なお，数値目標について平成26年度の実績の記載がありませんが，もし部局の方で分かれば教えていただきたいと思います。

続きまして，10ページの番号31番につきましては，数値目標である「阿波地美栄（ジビエ）」取扱店舗数が目標を上回っていることから，平成27年度の進捗状況は良好と判断しました。そして，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ａ評価としました。

次に，基本目標３に移ります。基本目標３は，「結婚，出産，子育ての環境づくり」のところですが，評価シートの２ページ，番号46番なんですが，数値目標である第３子以降の保育所・幼稚園等「保育料無料化制度」の創設が達成できていることから，平成27年度の進捗状況は良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ａ評価としました。

次は，４ページの番号52番につきましては，数値目標であるとくしまジョブステーションを活用した就職率が，目標を大きく下回っており，平成25年度の実績よりも減少していることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｃ評価としました。取組内容や今後の方針について，担当部局から補足説明がある場合は，お願いしたいと思います。

次に７ページの番号58番につきましては，数値目標である「はぐくみ支援企業」認証事業所数が目標を大きく下回っていることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。課題にもあるように，認証のメリットが実感できるような新たな取組みが必要ではないでしょうか。取組内容や今後の方針について，担当部局か

ら補足説明がある場合はお願いしたいと思います。

最後に，基本目標４「活力ある暮らしやすい地域づくり」に入ります。まず１ページの番号61番につきましては，数値目標である地方創生につながる取組みの創出事例数が目標を上回っていることから，平成27年度の進捗状況は良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ａ評価としました。

次に５ページ，番号69番につきましては，数値目標である「生きがいづくり推進員の活動延べ人数」が目標を大きく下回っており，平成25年度の実績よりも減少していることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。課題にもありますが，そもそも推進員の活躍の場については，前もって考えておくべきではないでしょうか。取組内容や今後の方針について，担当部局から補足説明がある場合はお願いしたいと思います。

続きまして，６ページの番号70番につきましては。数値目標である県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等の参加者数が目標を大きく下回ることから，平成27年度の進捗状況は不十分と判断しました。その上で，具体的な新たな取組みが見られないことから，Ｃ評価といたしました。取組内容や，今後の方針について担当部局から補足説明がある場合はお願いしたいと思います。

14ページの番号90番に関しましては，評価の時点で実績値が判明している指標はありませんが，取組内容を見ると一定の成果が上がっていることから，平成27年度の進捗状況は概ね良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｂ評価としました。なお数値目標について，平成26年度の実績の記載がありませんが，もし部局の方で分かれば教えていただきたいと思います。

15ページの番号91番につきましては，評価の時点で実績値が判明している指標はありませんが，取組内容を見ると一定の成果が上がっていることから，平成27年度の進捗状況は概ね良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｂ評価としました。なお数値目標について，平成26年度の実績の記載がありませんが，もし部局の方で分かれば教えていただきたいと思います。

番号92番につきましては，評価の時点で実績値が判明している指標はありませんが，取組内容を見ると一定の成果が上がっていることから，平成27年度の進捗状況は概ね良好と判断しました。その上で，今後の取組方針を概ね妥当と判断して，Ｂ評価としました。

最後になりますが，16ページの番号93番につきましては，数値目標である「とくしま食品表示Ｇメンの立入調査・検査事業者数」が目標を上回っており，取組方針も妥当であることから，Ａ評価としました。この数値目標は，平成28年度の見直しで，年間170事業者から200事業者に上方修正されています。今後とも果敢に取り組んでいただきたいと存じます。評価についての説明は以上でございます。

（会長）

それでは評価に移りたいと思います。なお本日の会議は，総合的な観点からの意見，

提言を含めて，全体で午後３時30分終了と考えております。総合戦略は，４つの基本目標に分かれております。その基本目標ごとに協議したいと思います。

まず初めに，基本目標１「新しい人の流れづくり」でございます。Ａ委員からは，「担当部局の方にいくつか確認したい」「補足の説明が欲しい」ということがございました。特にＣ評価となっている事業についてであったように思います。それでは，まずそこから始めていきたいと思います。基本目標１の２ページ，番号４番になります。②多様な人材還流に関連いたしまして，ジョブステーションを活用した就職率と，プロフェッショナル人材の正規雇用数，こちらに関連してです。今後の取組方針などについて，もし補足的な説明があればお願いしたいのですが。

（商工労働観光部）

簡潔に補足という形で説明させていただきます。

まず，とくしまジョブステーションを活用した就職率の件でございますけれども，今現在，有効求人倍率，これは過去最高の水準ということで，売手市場とも言える状況ではございますけれども，実はハローワークといった国の公的機関によります就職支援機関を活用して，職に就こうという方が年々減少しているというふうな傾向が見られるところでございます。

こうした中で県といたしましては，本年４月に，新たに「ジョブナビとくしま」というものを開設をいたしました。ここで，県内の中小企業の紹介でございますとか，就職に関するセミナー等の情報を積極的に発信を行っているところでございます。特に就職率を高めていく上で，Ｕターン，そうした方への働きかけをより高めるということで，関西系の大学10大学と，就職に関する協定の締結を結びますとともに，大学入学後の早い段階から県内外の大学生を対象に，県内企業の動向，例えば採用の動向でございますとか，就職はこういったイベントがございますとか，そういったことを懇切丁寧に，できるだけ情報を発信する形で，将来的な就職につなげていきたいというふうに考えているところでございます。なかなか，公的機関を通じての就職が少なくなっている状況でございますけれども，来られた方が，できるだけそのまま就職定着されるように，引き続き努力をしてまいりますので，御理解のほどよろしくお願いいたします。

続きまして，プロフェッショナル人材でございます。これにつきましては，中小企業のニーズとプロフェッショナル人材をマッチングするための拠点ということで，昨年12月にプロフェッショナル人材戦略拠点というものを設置をいたしました。拠点の役割は，プロ人材を必要とする県内企業，これをまず発掘することにございます。そして，プロ人材の募集につきましては，民間の人材会社に行っていただくということで，拠点の努力だけではなかなか完結しない，そもそもスキームなんでございますけれども，また45道府県で一斉に拠点を設置したということで，地方への転職希望者を各拠点で取り合うというふうな状況でございます。

ただこういった中でございましても，本県内にそういった企業の発掘のニーズが，

今現在，昨年の12月から約88社を回っていろいろお聞きしたんですけども，45社の方から人材が欲しいという話を伺ってございます。残念ながら，昨年は１社も決まる所がございませんでしたけれども，今現在で４社が内定し，もう１社も来月にはひょっとすれば内定が出るというふうな可能性がございます。こういったこともございまして，こういったスキームの中で，来月からは，東京でしっかりと人材会社を集めて，募集企業の説明会を定期的に実施するなど，人材派遣会社の方にしっかりと働きかけて，県内企業のニーズに応えられるように努めてまいりますので，御理解のほどよろしくお願いいたします。

（会長）
はい，という説明でございましたけれども，Ａ委員さんいかがでしょうか。

（Ａ委員）
私が発言する前にどなたか。

（会長）
そうですか。いいですか。他の委員さんの方，この点に関していかがでしょうか。特にこの会議では，委員からの提言に重きを置く，未来志向型の政策評価ということを基本的なスタンスにしておりますので，このＣ評価の事業につきましては，改善策などを委員の皆様からは頂きたいなというふうに思っているのですが，いかがでしょうか。

（Ｂ委員）
ここは，基本目標３のところとも関連をする項目がございまして，とくしまジョブステーションを活用した就職率の関係については，未達ということであります。ただ有効求人倍率が高くて，いわゆる支援を受けて就職する者が急減をしているというところですけれども，その意味では，ジョブのサポートをするというふうなことで，その中で周知活動を徹底するというような発言もございまして，その意味では，これからこの問題については増えてくるのではないかというふうに思っております。
あとは，プロフェッショナル人材の正規雇用については，人材派遣会社を通じてというふうなことで，ここも27年度少し周知不足だったのかなというふうなことでありますけれども，今後の取組方針の内容を含めて，非常にきめ細かに対応ができているのではないかというふうなこと。冒頭に申し上げましたように，ジョブナビとくしまなどでも周知をしていくということでもありますから，Ｃ評価よりはＢ評価の方が私はいいのではないかというふうに思いました。

（会長）
　他の委員の皆様方，いかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｃ委員）
　質問になるんですけれども，ジョブステーションを活用した就職率が目標値を大きく下回っている感じなんですけれども，ジョブステーション自体の活用者っていうのは，どれぐらい機能しているんでしょうか。

（商工労働観光部）
　昨年度のジョブステーションの活用実績でございます。27年度の利用件数は，県の事業と併設する形で国の機関もございますので，国の事業と両方になるんですけれども，まず県の事業で，例えば職業相談でございますとか，それについては3,400件ございました。それから，それ以外の生活就労相談という形で，例えば「住宅の確保について，ちょっと教えていただきたい」とか，生活維持支援とか，職業能力の開発とか，そういった形での生活就労相談が約206件ということで，県の関係で約3,600件ありました。
　それから，国の事業の総合的就業と言いますか，そういった生活支援の関係の利用件数は，約7,400件あったというふうにお聞きしております。合計で1万件余りの実績があったというふうにお聞きしております。よろしくお願いいたします。

（会長）
　どうでしょうか。よろしいですか。いかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｄ委員）
　直接的に，何かすごい前向きな提言ができるわけではないんですけれども，あくまでも就職率というのは，県内のマクロ的な意味合いにおいての数字であって，最終的には個々人と言うか，１つの企業と１人の労働者のマッチングの問題ですから，相当分ミクロの話になるということになると。
　ということになると，１つは，県内って言っても広いですから地域の問題，それから職種の問題，それから賃金水準の問題と，そういうところが全てマッチングしてっていうようなケースになると，当然ですけど徳島県という話ではなくて，なかなか難しい部分があると。なおかつ元々の目的が，「人口の減少の程度をできるだけ緩やかにしましょう」というような，そこのところから始まっているという部分においてということになると，地元の高校生，あるいは大学生が他府県に出ないようにする。それだけでは足りないから，Ｉターン，Ｊターン，それからＵターンと。
　Ｉターン，Ｊターンも大事だと思いますけれども，一番確率が高いのは，多分Ｕターンだと思いますので，となったときに，大阪とか東京の大学に出て行った学生を徳島県内の企業に引っ張ってくるときには，新卒の学生だったらあまり関係ない

ですけれども，ある程度の年齢がたった，例えば40代ぐらいの人にＵターンで戻ってきてもらうときに，その人が東京とか大阪で働いている企業，あるいは働いている賃金水準を，Ｕターンで徳島に戻ってきて，その賃金を手当することができるのかというような問題もあります。つまり完全にミクロな話ですからということになると，数字としては，当然何らかの指標を使わなければならないので，こういったような就職率っていうのはマクロのデータだし，それから有効求人倍率も当然同じですけれども，県レベルにおいてのマクロのデータですからと。

ただ，先ほどお話したように，地域の問題と職種の問題，それから賃金の問題を考えると，もっといろんな側面で目的を明確化させた上で，どういう人を対象に，例えばＵターンだったら，その人に県内に戻ってきてもらって就職してもらえるのかというところまでも，という話になると，文字通りこの４番のテーマだけの話ではない，もっと大きな側面にも関わる話だと思います。ということから言うと，項目からすると１つのテーマですけれども，相当重要なテーマだと思いますので，評価の話からすると，今の数字としてはこういう数字になってますので，もっと一層力を入れていただきたいなという意味で，Ｃ評価でいいんじゃないかというふうに思います。

（会長）

ありがとうございます。Ｅ委員さん。

（Ｅ委員）

私も趣旨はＤ委員と同じようなことなんですけれども，多様な人材の還流ということのテーマにおいては，我々が評価するときにいつも迷っているところが，用意されている項目で評価をしないと駄目というところが，いつも一番迷っているところで，それを議論し始めると，計画の段階というところになってしまうので，あまり踏み込んでは言えないんですが，この項目で評価したらＣ評価になるとは思います。

ただ，ここの全体的なところを考えてみると，ここに出てる項目っていうのは，今の社会の流れとしてはちょっと厳しい数字が出てしまうような項目なので，私は評価としてはＢ評価にしておいて，でもこの項目だけ見るとＣかとは思うんです。でも私は，いろんな取組みをしてくださってて，あと大学と県内の企業との間の連携というのもしっかりできるようなサポートをしていただいているかなというふうに感じておりますので，そういうところを考慮すると，私はＢ評価かなというところではあります。何かちょっと微妙な表現で申し訳ないんですが，ここに出てる項目っていうのが，ちょっとかわいそうかなという気がしております。

（会長）

恐らく大学という関係の話になってくると，先ほどジョブステーションもそうで

すけれども，基本目標３「結婚，出産，子育ての環境づくり」という，別の目標のところに若い世代の正規雇用の更なる拡大という項目があって，そこにもジョブステーションが出てくるんですが，多分そちらでそういう観点は入れてもいいのではないのかと，今のお話を聞いてて思ったりしたのですが。

ここは，あくまで大学という訳ではなく，恐らく人材還流ということなのかなという気はするんです。そうすると還流っていうのは，よそから戻ってくるというイメージだとすると，県外大学との連携というのは，多分ここではあまり想定していないことなのかなという，いわゆる地元で就職っていうのは，と思ったりはしたんですが，その辺もここに加味した方がいいというお話でしょうか。

（Ｅ委員）

そういう観点ではないんですが，還流の一番大きいのかなというのは，40代，50代の人が帰ってくるというよりは，むしろ県外に出て行った学生たちが，徳島で新規の就職をするというところが一番堅いかなというような気がしております。そこの面でいきますと，県外の大学とかについても連携をしていただいたり，いろんな情報発信していただいているというところの想定を私はしておりましたが，ちょっと議論のとことは思います。

（会長）

なるほど。多分県もいろんなことをやっていただいてはいると思うんですが，この文面からそこまで読み取るのはなかなか難しいような気が。僕のこの立場で言うのもあれなんですけども，いかがでしょう。

（Ｄ委員）

Ｅ委員がおっしゃるように，どういう人をターゲットにしているかによって，かなり話は変わってくるので，今言われたような比較的若い，はっきり言えば徳島の高校を卒業して，徳島の大学に行かずに大阪とか東京の大学に行った学生が，Ｕターンで徳島に戻ってくるのか，戻ってこずにそのまま東京とか大阪に就職するのか，多分そこが大きな話ということになると，その学生が徳島に戻ってくるかどうかという基準は，雇用の問題が１つと，雇用でない部分の問題。単に働くではなくて，働く以外の側面で，東京とか大阪に魅力があるからという話になってしまうと，そちらの話になると「雇用の話で評価しましょう」っていう４番の話とは全然関係ない視点になってくると。でありながら，就職はそんなにしないというか，はっきり言えば都会に残りたいからという側面と，もう１つは，本当は徳島に戻ってきたいんだけれども，残念ながら家の近所で大卒の学生を雇ってもらえるような企業がないからとか，あるいはそういう条件の会社がないから，嫌々東京とか大阪の，自分が出て行った大学の近所というか，その辺で就職するという側面があって，そちらの方をいかにして戻ってくるかと。

東京とか大阪の方が楽しいからそっちに残りたいから就職したいという学生を，「いや徳島に就職すべきだ」という議論をするんだったら，４番の話とはまた別の話になると思うんです。ただ雇用の側面から，４番の話で言うならば，本当は徳島に戻りたいんだけれども，そこに就職先がないとか，自分の働きたい企業がないっていう場合になると，文字通りこの４番のテーマになると思いますので，その側面から言うと，今どっちかと言うのは非常に難しい。その解釈は，「それをお前がしゃべれ」と言われるとちょっと難しいので，ただ有効求人倍率自体が高いですから，少なくとも先ほどお話したマクロ的な意味合いから言えば，多分数はあると。はっきり言えば，「何の仕事でもいいです」と言えば必ず就職はできると。ただ，その職種であるとか地域であるとか，恐らく大学生は賃金水準はあまり関係ないと思うので，その２つの側面からすれば，あるけど，じゃあ就職するかどうかというのは，なかなか難しいかなと。

地域の問題が一番大きいのかな，徳島県内の中でも。ということになると，４番のところで言うならば，Ｕターン組の大学生の話に絞ると，ちょっと４番の評価はしにくいのでっていうことになると，数字としてもなかなか難しいと思いますけれども，もうちょっと年齢を上げたＩターン，Ｊターン，Ｕターンと，大学生という意味のＵターンではなくてっていう話になると，なかなかそっちの数字は上がってこないと思いますのでっていう，先ほど言ったのはそういう趣旨ということになります。

（会長）

多分我々で，ここで勝手に解釈して，違った事業になってしまいそうな気が。ここに若年者，中高年齢者，ＵＩＪターン希望者等と書いてあるんで，それはそのまま受け止めていいんじゃないかと思います。そこをあえて，ここでこう大学生に絞った議論をしなくてもいいかと思うので，恐らく幅広くやっているんだという事業なんだと思うんです。で，いかがいたしましょう。Ａ委員さんどうでしょう。

（Ａ委員）

基本に立ち戻って考えてみると，評価っていうのは，やっぱり数値目標は元々担当部局が設定をしていて，それに対してどの程度それが実績として到達をすることができるのか，それが１つの基準と。そして，それだけではなくて，種を撒いて，まだ十分に実っていないけれども，これから十分にそのことが期待できる。その期待値と両方合わせて判断をすべきだと思うんですが，このことに関しては，実はとくしまジョブステーションを活用した就職率も，プロフェッショナル人材の正規雇用数も非常に厳しいんですよね。来年も厳しいと思う。来年厳しかったら，今年Ｂにして来年Ｃにするかっていう話になると思います。私は，ここは心を鬼にしてＣにしたいと思います。個人的な意見です。

（会長）
　はい，案を作成いただきました心を鬼にしたＡ委員さんからはＣという意見がありました。いかがでしょうか。意見は多少割れ，いろいろ御意見あるかと思いますが，案を作成いただいたＡ委員さんを尊重したいなと思ったりはしたんですが，どうでしょうか。よろしいですか。ではＣということにしたいと思います。

（Ａ委員）
　来年，この数値が上がったらＢに。

（会長）
　数値が上がったら自然になるかと思います。あと，もし関連しましてＡ委員さんから改善策，こんなふうにとかいうような，もし御提案があったらいただければと思うんですが，いかがでしょうか。

（Ａ委員）
　これは厳しいね。だから本当に商売ではありませんけれども，あきない，あきないで続けるしかないと思います。非常に至難の業に挑戦しています。しかも行政ができることは，自分が主体になることではなくて，ポンプが自分で水をくみ出せるように，お水を上からバケツで入れて，ビューッと出てくるようになるとか。あるいは，車で言うと押しがけですので，そのきっかけを作るのが行政の仕事でして，最後までいわゆる馬や牛を川まで連れて行って水を飲ませるというところまではいきませんので。それは非常につらいところなんですが，方向は決して間違ってないと思います。いつか必ず外的な要因は，やっぱりまた状況によって変わりますので，辛抱強く事業を進めていただきたいと思います。

（会長）
　もし一言，僕から感想的なものを付け加えさせていただくなら，ここの課題に書いてあるとおりのことだと僕も思うんです。有効求人倍率がいいと。だからこういうハローワークのような公的なものの利用が減るんだということになれば，地方創生がうまくいけばいくほど，もしかしたらこの率が下がっていくことになるんだとすれば，ＫＰＩの分と言いますか，人材還流だとすると，別にジョブステーションを使うことが最終的な目標でなければ，ここが下がったとしても，ＵＩＪターンが増えたんだという，もし代わりの数値があればいいのかなと思ったりはいたしました。
　逆に言えば，景気が悪くなればなるほど，徳島が沈めば沈むほど，この数値が上がるっていうのは，そのときにはいかがなものかと。「良かった，目標がクリアできた」と言いながら，足元が暗いというのも嫌な話かなと思ったりしますので，両立できるような目標に変更するというのもあるかなと思ったりいたしました。

それでは，４ページの７番「成長分野」関連企業の本社機能誘致数につきまして，もし担当の部局から補足の説明などいただけましたらお願いいたします。

（商工労働観光部）

地域経済の活性化と雇用の場の創出ということで，企業誘致活動，これも大変重要なものということで，今現在取り組んでいるところでございますけれども，特にＬＥＤでございますとか，環境・エネルギーとか健康・医療，こういった分野につきましては，関連企業の更なる立地とか，事業拡大が十分期待できるということで，我々成長分野という形で位置づけて重点的に取り組んでいるところでございます。

こうした中，昨年国の方で地方拠点強化税制というのが導入されまして，それにいち早く県としても地域再生計画を策定して，国に認定を頂いたというところでございます。

こうした税制面の優遇措置とか補助制度を活用して，本年２月に，地域再生計画に基づく本社機能移転の第１号という形で，兵庫県に本社を置く企業さんが，本県にも移転を実現いただいたんですけども，実は残念ながら，これが位置づけていた成長分野でないということで，今回数値目標が０社という形になってございます。

今年度以降につきましても，本社機能を移転するにおいても，先ほどの成長分野でございますとか，それ以外につきましても，また違う補助メニューを創設するなどして，できるだけ本社機能移転の実施について取り組んでまいりたいと考えております。なお成長分野につきましては，本社機能ではございませんけれども，成長分野の誘致奨励企業数ということで，ＫＰＩの方にございますように，４社が既に立地を昨年度させていただいたというところでございますので，御理解のほどよろしくお願いいたします。

（会長）

以上説明いただきましたが，いかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｂ委員）

成長分野関連企業の誘致数ですけれども，０社というところなんですが，この進捗のところに誘致活動の展開を示している，何社ぐらい展開をしたのかとか。それから積極的な企業訪問，現地案内，どのくらい現地案内ができたのかとか，具体的な数字を出していただきたい。特に来るか来ないかは相手さんの考え方ですから，どれだけのプレゼン力があったかとか，どのぐらいにアタックしたのかというところがやっぱりウェイトを占めると思いますので，いいプレゼンができたんだけれども，来てくれなかったとかいろいろあると思いますけれども，その辺りでちょっとお答えいただいたらと思います。

（商工労働観光部）

27年におけます取り組みの状況でございますけれども，東京本部，それから大阪本部との連携を中心にいたしまして，大小ございますけれども200数社にお話をさせていただいたというふうに聞いてございます。

（会長）
はい，ありがとうございます。このような感じのようですが，いかがでしょう。

（Ｂ委員）
現地案内というのは，徳島に来てもらって，その所を案内したということですか。

（商工労働観光部）
先ほどの200数社全て現地案内というわけではないんですけれども，基本的には向こうの担当者と私どもの方で，できるだけ現地案内をさせていただいたところでございます。

（Ｂ委員）
そのときの，例えば相手企業側の感触とか，そういうのはどうでした。県側のプレゼンの内容によってどう答えられたのかどうか。

（商工労働観光部）
種々あったかとは思いますけれども，徳島っていう地に対する印象って言いますか，企業さんのイメージっていうのが，来ていただいて初めて気付いていただいたというふうな形もございます。当然各企業さんそれぞれ取引，いろんな業種がございますので，そういった取引企業さんとの連絡と言いますか，そういった形にもつなげますし，特に人材の確保というところで，研究職の方にとっての立地と言いますか，本県のイメージみたいなのが結構高かったんではないかというふうに考えております。

（会長）
いかがでしょうか。評価につきましてはどうでしょうか。もし「こんなふうにするといいぞ」という，今後に向けた御意見とかがあれば。Ａ委員さんいかがでしょう。

（Ａ委員）
なかなか本社企業の誘致っていうのは，例えば企業が起業する場合に，なぜその地なのか。例えばトヨタであれば，やっぱりあの豊田っていう，そういう思い入れがあったりするので，なかなか一朝一夕にはいかないと思うんです。でも例えばサテライトオフィスであったり，神山にたくさんいろんな，実は今全国の企業が，突起というか触手というか，それをいっぱい徳島に伸ばしてきている状況があると思

います。だからまずそういったところから始めて，それで手を伸ばしてきたらパッとつかんで，いつの間にか引っ張り込むみたいな，そういう長期戦略もやっぱり必要なのではないかと思います。

（会長）
ありがとうございます。あと，ここであれですけど，東京大阪でって言うと，東京の人たちが徳島をどう思っているか，大阪の人たちが，西日本，東日本の文化の違いではないですけれども，いろいろ率直なところは，多分皆さんあまり公の場では言わないんですけど，御存じのところがあろうかと思うので，兵庫県とか関西からの方が来てもらいやすいのかなとか，あと創業して間もないとか小さな所とか，そういう所にちょっと来てもらったりして。そして来てもらって，そのきっかけで大きくなってもらって，ずっといてほしいんですけど，というふうな戦略みたいな，大きなお魚を狙ってもいいんですけど，小さいけど将来大きくなりそうな所に来てもらうというふうなのもいいのかなと思ったりしました。
それでは，この７番はここまでにいたしまして，続きまして，今度は基本目標２へ移りたいと思います。基本目標２は，評価案としてＣというものはございませんでした。けれどもいくつか指標として数値が出ていないものがあったりして，それに関連して，もし確認できること，補足的な説明があればというのが，Ａ委員さんからございました。
まず，５ページの22番，こちらはいかがでしょうか。

（農林水産部）
５ページの22番の数値目標，構造改革を実施した園芸産地における生産額というところで，27年度の実績値が出ていないということで，26年度の実績の御質問がございました。26年度につきましては，23億円ということで実績値が上がっているところでございまして，27年度の目標が20億円でございましたけれども，それは超えておるという状況でございます。
こちらについては，園芸品目の取組みということでございまして，徳島県農業生産額全体で，一昨年953億円ですけども，そのうちの園芸品目，野菜，花き，芋類，果樹ですね。合わせまして570億円ということで，全体の６割を占めているという状況でございますので，この園芸品目の振興というのは，特に重点的に取り組んでいる状況でございます。

（会長）
ありがとうございます。いかがでしょうか。この数字の並びと言いますか，推移をどう捉えるかというところかもしれないですが，25年時点で10億，26年で23億，そして27年で目標として20億というように捉えると，何か変な感じがしないでもないんですが。ただ超えていると言えば前年に超えているんですけれども，目標値が

前年を下回っているといると見ればそうでもないような，どんなふうに捉えるか。

（Ｆ委員）
お尋ねしたいんですけど，生産額と生産高とは違うと思います。生産の産物価格って低迷していますので，生産高というのは伸びているんじゃないかなと思うんですけど，いかがなんでしょうか。

（会長）
生産高とかって分かりますか。

（農林水産部）
申し訳ございません。ここの数値目標に関する生産高というのは，今持っていないんですけど，後で補足させていただきます。計画を立てた時点では，26年度の実績もまだ出ておりませんでしたので，27年度の目標として20億円という数字を立てたところでございますので，後から26年の実績が分かったということで，思ったよりも実績が上がっていたという状況でございます。

（Ｆ委員）
農産物価格って，本当に右肩下がりに下がってますので，生産高としては結構伸びているんじゃないかな。でも金額的に，それに乗ってこないんじゃないかなみたいな，農家としては思いがあります。

（会長）
恐らく，多分農家の方の思いとしては，「やっぱり金額やろ」っていうところをくんだハードルの高い目標と言いますか，実態をそのまま受け入れた数値目標をここに掲げているのかなとは思うんですが，いかがでしょうか。とはいえ，26年度，前年度の23億円の実績はあるということなんですが，Ａ委員さんいかがでしょう。

（Ａ委員）
徳島で，今非常に注目されているのは，やっぱり産直市で，特に私の近所にある百姓市は，非常に人気があるんですね。中野統夫さんという方が，最初にそれを立ち上げられたんですが，彼がいつも言ってたのは，「農家っていうのはあほや」。どういうことかと言うと，一生懸命作るんだけど，自分で１回も値段を付けたことがないって言うんです。だから産直市に出すときには，自分で一応値段を付けるわけです。
私もつい２～３年前まで教授米っていうので，キョーエイにちょっと一時期出していたことがあるんですが，やっぱり自分でお米に価格を付けるっていうのは快感なんですよね。やっぱり勉強にもなる。

「とくし丸」もありますしね。それからキョーエイの「すきとく市」もありますよね。だから，いろんな発想を変えることによって，まだまだここは成長できるんではないかなっていうふうに考えております。ただし，評価は現段階ではＢにさせていただきたいと個人的には思っております。

（会長）
分かりました。ありがとうございます。この基本目標２では，特に確認というのはこれだけだったと思うんですが，あともし評価に関連して，あるいは御意見などで皆さんからありましたらお伺いしたいんですが，いかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｂ委員）
23番の農地中間管理機構なんですけど，特に前回のときにも申し上げたんですけど，やはり周知不足と課題にもありますように，貸付期間が非常に不安だというふうなことがポイントだと思うんですよね。特にこれがうまく進まないと，耕作放棄地が年々増えてくると。特に団塊の世代の人たちが耕作できなくなってくると，いわゆる耕作放棄地につながってくると。後の世代が，それで耕作するかどうかというのは，非常に不透明ですから。
そういう意味では，農地中間管理機構という仕組みは，非常に仕組みとしては優れているので，いわゆる利用しやすいような仕組みと，そのことを周知するということがやっぱり求められているのではないかというふうなことで，そういうところに力点を置いて，これから進めていただいたらというふうに思います。

（会長）
はい，ありがとうございます。他に御意見ありますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
では，引き続きまして基本目標３に移りたいと思います。「結婚・出産・子育ての環境づくり」ということでございます。まずこちらでは，52番が再びとくしまジョブステーションということになるんですが，ただ同じものですが，登場の仕方と基本目標が違うというところにはなります。ただ先ほどは，プロフェッショナル人材というのと合わせてだったんですが，今回のこちらでは，ジョブステーションのみで上がっております。これは委員の皆さんいかがでしょうか。

（Ｂ委員）
先ほども申し上げましたように，今後の取組みのところは，緻密，きめ細かく方針を立てられているというところだと思います。その意味では，先ほども申し上げましたけれども，やはり周知活動，この課題にありますように，「支援機関の支援を受けて就職する者が急減している」と，有効求人倍率が少なくなっているという課

題のところで，なぜそれが急減しているのかというのを，いわゆる有効求人倍率が高いから急減しているんだというふうに出しているんですよね。そこのところを，もう少し現場ではどのようなことを考えられてやっているのかというふうなことで，もう１回ここのところは担当の方から，その辺りについてお聞きをしたいなというふうに思います。

（商工労働観光部）

現状ということなんですけども，実は今，有効求人倍率が1.36でございます。これはちょうど，この1.36という時代が，過去にもございました。ただそのときと一番違いますのは，生産年齢人口がかなり減ってきているというところがございます。ですから，15歳から64歳の方の人口がかなり減ってきたということで，公共職業訓練機関においでる方も，従来にはない高齢者の方でございますとか，そういった方も増えてきている状況にございます。ですから，労働局さんとの連携の中で，そういった高齢者の方への就職支援につきましては，従来にはないやり方を検討していかなくてはならないというふうに考えております。

ただ一方で，有効求人倍率が非常に高い中で，若年者の方の就職が，非常に売手市場ということなんですけど，冒頭でも先ほどの説明でも申し上げましたように，Ｕターンの方を中心に，大学に入って入学後の早い段階から我々も働きかけと言いますか，卒業間近ではなくて，早い段階から県内企業の動向でございますとか，そういったものをお伝えしながら，できるだけＵターンを促進してまいりたいというふうに考えているところでございます。すみません，ちょっと答えになってございませんけども，よろしくお願いいたします。

（会長）

この主要事業の概要のところで，先ほどと同じ文章がここにそのまま載っているということだと思うんですけれども，これは54番，隣の５ページの方もそうなんですが，やっぱり中高年齢者という表現がここに入ってくるのは，すごく僕には違和感があって，若い世代の正規雇用の更なる拡大というのがあると，そのために，なぜに中高年齢者のバックアップが必要なのかと。

中高年齢者にやることで，若い世代の雇用がという，そういう意味なのだろうか。それとも何か事情があって，他のところに書いたのと同じものをここに写さなければいけないという理由があるんだろうか，どうなのか，どっちなのだろうかと思ったりするんですが，なぜここに中高年齢者が，これは54番の方も同じなんですが入っているのか，どういう理由なのか教えていただければと思うんですが。

（商工労働観光部）

冒頭にちょっと御説明不足だったかと思いますが，まずジョブステーションっていうものなんですけど，これは場所は県の方が確保いたしておりまして，中のソフ

ト運営につきましては，県の方でＵＪＩターンの促進を担ってございます。この中には，当然高年齢者も含むわけでございます。あと経営者協会の方で，フリーターとか，若年者の就職支援をやっていただくと。ですから若年者については，主に経営者協会の方でやっていただいているようになってございます。それから併設しておりますハローワーク，こういった所もございますので，国との一体的な実施で就労支援。この３つの機能を合わせ持った形での運営をさせていただいておるところでございまして，ですからジョブステーションと一言言ったときには，申し訳ありませんが，こういった分類にさせていただいているというふうに御理解いただいたらと思います。

（会長）
　そうすると，これはジョブステーションが，他の機能があるからといってここに，ジョブステーションの説明よりも，恐らくここは事業の概要なのかなと思ったりするんですが，やっぱりここには中高年齢者というのを，事業の概要の説明だと思うんですが，どうしても必要ということなんですかね。ここにあると，どうしても中高年齢者の支援もするのかなというふうに読めてしまうんですが，この若い世代の正規雇用の拡大のためにっていうふうに。

（商工労働観光部）
　分かりました。検討させていただけたらと思います。

（会長）
　他，いかがでしょうか。評価のＣのところにも関連して。

（Ｇ委員）
　「世代を超え地域で支える子育て社会の実現」というテーマのところで50番，評価についての異論はございませんけれども，いわゆる病児保育事業って言うんでしょうかね。実は私の会社でも月末で，女の子が二人，気候が変わって涼しくなって，「子供が熱で休みます」って，若い子育て世代をできるだけ雇っているんですが，ちょっと気候が変わると，やっぱり小さい子供さんが病気してしまうんですよね。そうなるとやっぱり「診る人がいないので休ませてください」と，いわゆるそういうことで，期待はかけているけれども「やっぱり女の子はあてにならんなあ」みたいなことになってしまいがちなんじゃないかと思うんですね。
　それだけでは判断してはいけないんですけど，やっぱりそういったことで，女性の就労支援という意味でも，病児のときのケアと言いますか，どうやって預けるかというのを，もう少し積極的に取り組まれてはどうかと私も常々思っているんですけれども。大体数値目標がまずないので，県として各市町村にどういうふうな体制で要望しているのか分かりにくいです。例えば，全体的に病児についての対応人数

は，どのくらいのキャパがあるのかとか，あるいは対応施設がいくばくかあるのかというような把握をされているのか。そうしてまた，そういう数値目標を設定することによって，いろいろ取組みが拡充できるのではないかなというふうに思ったりするわけなんですが，この点ちょっとお伺いしたいと思って，質問なんですけれどもお願いいたします。

（会長）
はい，こちらをお願いできますか。もっぱら市町村への取組み支援という話かもしれないんですが。

（県民環境部）
今の病児，病後児保育の展開に向けてということだと思います。ここにも書いてあるんですけど，取組みの市町村につきましては，今現在20市町村が取り組んでおるということでございまして，あと数値目標と言いますか，それぞれの市町村でどのくらいの数か。これは，そこの取り組んでいただける小児科とかとのキャパの関係もあって，各市町村で必要な数を対応できるように，病院等々と連携しながらやっていくように。ですから個々の数字の目標までは出していないんですけど，県としては24市町村が全部取り組むように応援していくということで，個々の市町村ごとのどれくらいの数を確保するかというのは，個々の市町村の方で算定して，取り組みできるように，県として応援していくということで進めております。ちょっと中途半端な説明で申し訳ございませんけども，よろしくお願いいたします。

（Ｇ委員）
何て言うんですか。もう少し具体的に，前もって質問しておけば良かったと思うんですけど，結構この病児の問題っていうのは，忘れた頃にポッとやってくるようなテーマですし，かなり必要性が高いケアの部分になると思うので，是非何かそういう取り組みを，もっと県の方でも積極的にされた方がいいのではないかなと思っております。

（会長）
はい，ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい，お願いします。
基本目標の３の範囲で。

（Ｂ委員）
その前の48番は，小児救急電話相談事業の認知度なんですが，目標は達成しておりますけれどもＢになっていると。これも前に議論をして，「こども救急電話相談」の新しいシステムが，実施からモデル実施というところが「○」だったと思うんですよね。相談はクリアをしていたと思いますけれども，ここはＢになったのはどう

いう理由からかなと思いまして。

（会長）
評価案の理由なんで，Ａ委員さんへのって話ですよね。すみません。Ａ委員さん，突如来たような感じかもしれないですが，２ページの番号48番は，なぜＢなんですかという質問。

（Ａ委員）
まず平成27年度の取組内容及び進捗状況は，概ね良好という話ですね。そして，今後の取組方針は，概ね妥当ということで，例のマトリックスに入れた結果，Ｂというふうに出したんですけど。最初の評価の方針っていうところがありましたよね。それで，進捗状況は概ね良好で，今後の取組方針も概ね妥当というところでＢにしたんですけどね。

（会長）
おそらくＢ委員さんは，行動計画の方の評価との関連をお伺いしているんだと思うんですけど，僕の考えとしては，行動計画と総合戦略，かぶるところは多いんですけれども，一応別の計画なんで，純粋ないわゆる再掲というわけでもないんで，違う評価になるということはあってもいいかなというふうには，僕としては思っています。おそらくＡ委員さんは，こちらの総合戦略という中で，ここで評価をしたときにはＢになるかなというところだと思うんですが。
もうちょっと甘いんちゃうかな。Ｃちゃうかな。もしあれでしたら，御意見としておっしゃっていただいて，みんなでまた議論できますので。

（Ｂ委員）
私自身の意見はないんですけど，今後の取組方針なんか４行ですから，Ａ委員が言われることを覆すくらいの方針をここで出していただければ，Ａに変えられるのではないかと思うんですけど。

（会長）
出していただけそうですか。分かりました。お任せいただきました。いかがでしょう。
では，これはこのままというところにしようかと思います。いかがでしょうか。
それでは，あと7ページ，58番です。「はぐくみ支援企業」認証事業所数，こちらが確かＣという評価になっておりました。もし担当の部局の方から，補足の説明とかいただけましたらお願いします。

（商工労働観光部）
はぐくみ支援企業の認証の事業所の件でございます。働きやすい職場づくり，仕

事と子育ての両立支援ということで，積極的な取り組みを「はぐくみ支援企業」として認証をさせていただいております。認証件数につきましては，28年３月末現在で194事業所でございましたけれども，８月15日現在で215ということで，４か月遅れで，昨年度の目標は達成いたしたところでございます。

ただ課題にも記載のとおり，企業の方から認証のメリットが分かりにくいというような課題もございますので，現在新たなメリットの導入もさることながら，県内企業にも直接訪問でございますとか，新たにアドバイザーという形で企業さんに派遣させていただくなどして，また優良の事例のパネル展示も県下で積極的に展開するなど，そういった認証のメリットをしっかりお伝えする中で，企業数の更なる飛躍につなげてまいりたいと考えております。

（会長）

ありがとうございます。いかがでしょうか。

（Ａ委員）

商工労働観光部で，徳島県地域産業活性化事業審査委員会というのがございまして，商工会と商工会議所へそれぞれ傾斜配分を付けて「お互いに競争をしてもらいましょう」というふうな試みがあります。実は，商工会がその中でプレゼンをすることによって非常に印象に残っているのは，南の方の島でやっているアート，そこのアートをやっている方のプレゼンも非常に印象に残りましたし，武蔵さんというふうな勝浦町商工会でやっているような人が非常に積極的な，その中に商工会を通じてはぐくみ支援企業に働きかけたかどうかというのも，確かポイントに入っていたような気がするんです。

だから，県だけでというのは非常に辛いので，やっぱり商工会とか商工会議所とか，そういうふうなものと有機的に連携することによって，こういう数っていうのは，ある程度働きかけができるんではないのかなと思うんですが，もしできたら担当課の方からちょっと補足していただいたらと思うんですが，いかがでしょうか。

（商工労働観光部）

ただいまＡ委員さんからおっしゃいました，商工会，商工会議所の方には，規定に則った支援制度がございまして，それには従来の同じルールではなくて，頑張った所にはそれなりの配分をというような形で，それを御審査いただくための委員会ということで，Ａ委員さんにも御参入いただいているところかと思います。

そうした中で，そのはぐくみ支援企業への働きかけ数というのも，当然配分を決定する上での一つの要素として考えさせていただいているところでございますので，当然ながら今後とも，商工団体の方ともしっかり連携して，このはぐくみ支援企業の増につなげてまいりたいと考えております。

（会長）
　質問のような感じになるかもしれないんですが，課題のところに，「職場環境の改善や企業のイメージ向上につながった」，これで十分ではないんですかね。これだというわけにはいかないんですか。これ以上に，更にメリットが欲しいということなんだと思うんですけど，これでもしかして十分というわけではないんでしょうか。これでいいじゃないかと，そういうものではないのかなと，率直に思ったりしたんですが。これ以上の何か，税制の優遇とか，補助金とかそういう話ですかね，これは。イメージが上がって，職場環境が良くなったら。

（商工労働観光部）
　確かに企業自身のイメージアップということで，当然ながら今会長さんがおっしゃいましたように，最大のメリットかと思うんですけど，ただ一方では，認証のよく分からないという中には，金融機関による低利融資支援でございますとか，県主催の就職のフェアとかの優先配席とか，そういったいろんなメリットがございまして，そこら辺の周知がおそらく十分でないというふうなことの御指摘かと思いますので，そこら辺はしっかり周知をしてまいりたいと考えております。

（会長）
　なるほど，分かりました。多分他にも，もっとメリットがある部分の説明をというところなのかなと，今いろいろお伺いして。ただ主たる目的は，職場環境が改善されて，企業のイメージが向上されているという意味では，僕の感覚で言うと，十分に達成しているところもあるのかなと，思ったりはいたしました。そういう意味では，もしかしたら評価に関連して言うと，それでも取組みが「△」なんでＣですね。上げていくの妥当っていう。

（Ａ委員）
　取り組みが不十分で，今後の取組方針は概ね妥当なんですね。だったら例のマトリクスに入れて考えてみると，Ｃになりますね。
　いわゆる，はぐくみ支援企業に対する周知が，まだまだ発展途上だということが言えると思うんですよね。

（会長）
　あと少し足りない数値をがんばって達成していくのかなと思いました。
　はい，お願いします。

（Ｂ委員）
　Ｃ評価を不十分っていうふうに決めつけるわけですよね。でも，194事業所に認証事業所を増やしたんだと，こういうふうな発想からしますと，しかも進捗状況のと

ころでは，アドバイザーの派遣でありますとか，パネル展を開いたとか100社以上の戸別訪問をしたとか，いろいろ周知啓発のための研修会などをやってきているというふうなことで，少しは十分ではありませんけども，ＣからＢに上げてもいいんではないかというふうに私は思いました。

（Ａ委員）
先ほどは，心を鬼にしたんですが，仏の顔もございますので，そういう助け船を出していただけるのであれば，Ｂにするのは決してやぶさかではございません。

（会長）
すると，過去の数値は変わりませんので，こちらは不十分というところかもしれませんが，今後の取組方針は妥当であるというふうなところで，総合的にＢという評価でいかがでしょうかという話かと思うんですが，いかがでしょうか。よろしければ，こちらはＣという評価だったんですが，Ｂに変更したいと思います。また，こういう何て言いますか，子育てに関わるようなところを，職場とか企業だと思うんですが，それを県民環境部とかではなく，商工労働観光部でやっているところにも意義があるのかなというふうに思ったりはしますので，こちらはＣではなくＢというふうに変更したいと思います。
それでは，もしなければ基本目標３は終わりまして，次，基本目標４に移りたいんですがよろしいでしょうか。基本目標４ですけれども，こちらは，まず５ページの番号69番でございます。「生きがいづくり推進員活動延べ人数」の件ですが，もし担当の部局から補足の説明などありましたらお願いいたします。

（保健福祉部）
この生きがいづくり推進員についてなんですが，これはとくしま“あい”ランド推進協議会で実施していますシルバー大学院で，卒業条件として取得しました資格を生かして，卒業後に地域社会からの要請に応じていろんな活動を行うということで，本年の３月末現在で805名登録されています。
具体的にどんな活動をされているかと言いますと，シルバー大学校のＩＣＴ講座，この講師の補助，あるいは県内小学校のホームページの更新を支援するということ，それから阿波十郎兵衛屋敷で土日祝日が主なんですけども，来場者からの依頼で説明を行う観光ボランティアガイドとか，防災人材育成センターで防災啓発業務のサポート，また児童館で小学生向けのディスコン教室なんかもやっておられます。
それで，昨年度27年度の活動実績ですが，目標に対して約200人足りなかったということで，その主な要因ですけれども，１つには先ほど申しましたシルバー大学校のＩＣＴ講座で補助をしているんですが，この補助者の熟度が高まって，それだけの人数がいらなくて減らしたっていうことで，ここが延べで372人少ない数になってます。また，阿波十郎兵衛屋敷での観光ボランティアガイドも，来場者からの依頼

が27年度はちょっと少なく，延べ48人で活動が減ったというところが主な要因です。
今年度につきましては，従来の活動に加えまして，新たな活動の場をということで，徳島県のスポーツ振興財団とシルバー大学校ＯＢ会，この両者主催のグランドゴルフ教室，またディスコン教室などで，指導員として活躍は既に頂いておりまして，ここで延べ300人程度増員が見込まれることになっています。今後，それぞれ地域で知識や技術を生かして活動いただけるように，関係機関，団体と更なる連携を密にしまして，推進員の活動の場，創出確保に努めていきたいと考えております。

（会長）
はい，ありがとうございます。いかがでしょうか，この項目ですが。A委員さんどうでしょう。

（A委員）
シルバー大学校っていうのは，本当に盛んです。信じられないことが，シルバー大学校のシルバー，シルバー大学校を出た卒業生が同窓会みたいなものを作っていて，非常に活躍が盛んなんですよ。ですから私は，高齢者の方にシルバー大学校が非常に魅力があって，そこを卒業してもなおかつ，やっぱりそこにまた帰っていって，やっぱり人間関係を保っているっていう機能は非常に大きいと思うんですね。ですから，誰かどなたか強力な助け船を出していただけることを若干期待する部分もあるんですが，他の委員さんいかがでしょうか。数字から言うと，それはやっぱり私としてはCと。

（H委員）
助け船にはなりませんが，美馬市においても，このシルバー大学校を，社会福祉協議会の方が事業を受けてさせていただいております。多分カウントの仕方が，限られたカウントしかできてないのかなと思うんですけれども，地域で社会福祉協議会を通じて，ボランティア登録をして活動をしてくださっている方もおいでるんですけれども，多分その辺りはカウントされていないんだろうなと，今の話から聞くと思われます。そういった自分たちで活動されていることを，何か記録をして報告するような機会があれば，もう少し数字的には増えてくるのかなと思います。
もちろん，地域福祉を推進するリーダーというふうなところを目標に，この事業をやられてますけれども，なかなか今の団塊の世代の方は，自分たちが楽しむ方向にちょっといっているところも確かにあるんです。だから，もう少し地域で何か活動できるっていうふうなところは，やはり地元の社協がコマーシャルする機会が欲しいなと思っておりますので，そういったところも含めて事業等も考えていただけると，もう少し地域で活躍していくっていう方も増えていただけるのかなというふうに思う部分があるので，その辺りはよろしくお願いしたいと思います。

（会長）
はい，ありがとうございます。

（Ｆ委員）
地域でカウントの仕方の問題だと思って，今良い御意見いただいたと思うんですけど，小学校で子供の見守り隊とかをしたり，昔遊びとか読み聞かせとか，そういうのを今高齢者って言うか，中途高齢者と言いますか，そういう方が地域でも一生懸命なさってらっしゃいます。だから，そういうのもカウントの仕方でないかなと思って，地域で今60歳を超した方がすごく若いですので，いろいろ頑張ってらっしゃいますので，もう少し評価が良くてもいいんじゃないかと思います。

（会長）
今の話につきましていかがでしょうか。この生きがいづくり推進員とか，シルバー大学院という絡みもあるかと思うんですが。

（保健福祉部）
先ほどちょっとお話させてもらいました，生きがいづくり推進員として登録されている方が805名ということで，その方に限定した活動日数ということでカウントしているんですけど，今委員の方からお話がございましたように，推進員でも活動されているのに，こちらの把握が十分でないっていう部分も確かに考えられますので，そういったカウントの仕方とか，推進員としての活動人数については，これから少しまた検討させていただいて，来年以降にはもう少しきちんとした数字が出せるような方向で考えてみたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

（会長）
いかがでしょうか。他に御意見ありますでしょうか。今，その評価に関連しましては，Ａ委員さんの求める助け船の緩やかな風が，Ｆ委員さんからあったような気がするんですが，Ａ委員さんどうしましょう。いいですか，Ｂで。

（Ａ委員）
是非Ｂでお願いしたいと思います。それからちょっと余談になりますが，先日ニュースを見てましたら，ラジオ体操をお城の城壁の上で，何かあそこトップステージなんですね。だからＡＫＢ48のセンター争いみたいな感じで，お元気な方が報道されてて，非常にうれしくなりました。

（会長）
引き続きまして，６ページの番号70番でございます。こちらも，もし担当の部局から補足的な説明などありましたらお願いします。

（保健福祉部）
70番についてですが，昨年度が第21回目となりました県の健康福祉祭，これはスポーツの交流大会と文化の交流大会，また美術展などを開催してまして，スポーツ交流大会は，東部での本大会と南部西部でのサテライト大会として，卓球とかテニス，ソフトボールを始め20種目の競技を行いました。文化交流大会は，県立総合福祉センターでかるた，囲碁，将棋の３種目で交流を深めました。
また，山口県で開催されました全国の健康福祉祭，これに146名の高齢者の方を派遣させていただいたということで，その結果平成27年度の参加者数なんですが，25年度が3,579人，26年度が3,688人，これを上回る過去最高の3,725人となりましたけれども，目標値の4,000人には届かなかったという状況です。
このため28年度，今年度におきましては，スポーツ交流でラダーゲッターとカローリングの２種目を追加する予定ですし，また文化交流でも健康マージャンを追加ということで，計３種目を新たに追加することにしておりまして，参加種目の充実，参加者の拡大，そして高齢者の生きがいと健康づくりの機運の高揚を図ってまいりたいと考えています。

（会長）
これは，例えば見込みとしてこの種目を追加すると，28年度は目標は4,200名なので，その３種目で400名ぐらいは増えそうだなっていう見込みはってことなんですかね。マージャンって，卓を囲んでも４人かなって思ったりしたんですけど。どんなマージャンか知らないんで，健康マージャンっていうのを。

（保健福祉部）
この３種目を追加して，いくらぐらい増えるかっていうところなんですが，まだ現時点で見込みというか，それは分かりませんっていうのが正直なところです。

（会長）
どうでしょうか。いかがでしょうか。よろしければ，Ａ委員さんからは，今後の取組みに関連して何か御意見とかいただけると有り難いんですが，いかがでしょうか。

（Ａ委員）
やはりこれ非常に大事なのは，いろんな生きがいを持っている方の方が，はるかに長生きをする可能性が高いと思うんです。だから，それは何であってもいいと思うんです。たまたま私，個人的な趣味はソシアルダンスなんですが，「本当に80歳なんですか」っていう女性の方が，ドレスを着てピシッとされて踊っているということもあるんで，この文化交流大会なんかに社交ダンスは入ってないんですか。

（保健福祉部）
　現在は入っておりません。

（Ａ委員）
　結構たくさんおられますよ。

（会長）
　多分，入れてほしいという意見。

（Ａ委員）
　そしたらすぐに数値目標を達成できると思うんですけどね。ちょっと御検討ください。

（会長）
　ここで「入れる」という返事もしにくいと思うので，また後で御相談いただければと思いますけれども，もしかしたらもう１つ種目が増えそうな勢いではあるんですが，いかがでしょうか。

（Ａ委員）
　4,000人のところを3,725人で，もうほんの一息なんでね。どなたか委員さんの中からちょっと応援団が出てくれればＢにしてもいいとは思うんですけど，いかがでしょうか。

（会長）
　いかがでしょうか。

（Ｂ委員）
　これも先ほどのシルバー大学校とも関連をしますけれども，小さいお子様からお年寄りまでがスポーツを親しむというような取組みは，特に県も市町村との連携の中で，この事業を展開されていると思うんですよね。先ほどのカローリングっていうのは，三好の方でかなり熱が上がっていたり，徳島市なんかでも熱が上がっている。キンボールっていうのは，土成町なんかで非常に熱が上がってて，小さいお子さんからお年寄りまでできるっていうスポーツがあって，そういうそれぞれの自治体の体協などと連携を取って，目標が達成できるようにしていけばどうだろうかというふうに思うんです。
　Ａ委員，Ｂにしてはというふうなことであります。今までも一生懸命4,000人を目標にやってきて，結果的に3,725できましたんでね。Ｃは本当に不十分，できてないっていう評価なんですけど，3,725人も参加をしてくれたというふうなところに敬意を表して，Ｂでもいいんではないかと思います。

（会長）
分かりました。それでは，この70番はＢという評価に変更するのでよろしいでしょうか。御異論なしということで，Ｂにしたいと思います。今後の取組みに向けては，社交ダンスを入れてほしいという意見があったということだと思います。

（Ａ委員）
ご検討ください。

（会長）
続きまして，今度は14ページ，15ページ，時間の都合もあるので，こちらをまとめて取り上げたいと思います。90番，91番，92番，この３つですけれども，これいずれも担当部局が保健福祉部になっておるんですが，実績値が分からないという中で，もし何か補足的に説明いただけることがあればということだったかと思いますが，お願いします。

（保健福祉部）
26年度の実績値の件です。90番の三大疾病の壮年期死亡率についてでです。25年度が164.1になってますが，26年度は152.8ということで11.3ポイント減少しております。生活習慣病予防対策とか重症化予防対策とかいったところで取り組んだ結果，減少をしているというのが26年度の実績です。
続きまして，91番のがんの75歳未満の年齢調整死亡率ですが，これは25年度76.6から26年度は0.1ポイントですが76.5ポイントに，これも減少をしております。
92番の健康寿命の延伸ですけども，これは健康寿命と平均寿命の差ということですが，この都道府県別の平均寿命は５年ごとの国勢調査で決まるということで，22年にあって，去年の27年の国勢調査なので，これが分かるのが来年ということで，この数字は，直近のという形では，今記載のこの数字しか把握できないという状況ですので，御了承いただきたいと思います。

（会長）
はい，ありがとうございます。Ａ委員さんいかがでしょうか，これで。

（Ａ委員）
結果的に評価は，私としてはＢでいいんじゃないかなとは思うんですけど。Ａっていっても非常に良くできて，これ以上っていうふうな感じになるので，やっぱりこれ非常にすばらしい取組みで，よくやっていただいていると思うんですが，やはりまだまだいわゆる改善の余地があるんではないかという意味で，私はＢでいいんじゃないかと思いました。

（会長）
はい，分かりました。他の委員さん方いかがでしょうか。Ｂという評価ですが。基本目標４の他の事業も含めまして，評価についていかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは評価について，基本目標１から４までで，改めて確認をさせていただこうかと思います。まず「もうちょっと，ここはどうかな」と，もし御意見言い忘れたことがありましたらいかがでしょうか。振り返っていただきまして，基本目標１の番号の１番から基本目標４の番号112番までですけれども。はい，お願いします。

（Ｉ委員）
基本目標３の「結婚・出産・子育ての環境づくり」の１ページなんですけれども，数値に関しては，これははっきり出ておりますので仕方ないにしても，ボランティアでやってられる方の御努力はすごいものがあると私は聞いております。
県全体を聞いたことがないわけですけれども，地域の方の話ですと，いろいろ工夫されてアイディアを出してやっておられますので，その人たちに関してはＡをあげたいと私は思うんですけれども，数値目標の達成ということでこういうことになっておりますので，それも仕方ないのかなと思いますが，皆さんボランティアをされている方の御努力は，十分承知していただきたいなと思っております。

（会長）
はい，分かりました。いかがでしょうか。他の委員さん方，この45番ですけども，若い世代の結婚の希望をかなえるというところで，随分熱心にボランティアの方々にはやっていただいていると。もしかしたら「本人がもっとがんばれ」っていう声が，ボランティアの方々から聞こえてきそうな気がするんですけど，いかがでしょうか。評価をＡにしてもっていうところもI委員さんからあったような気がするんですが，評価に関連してどうでしょう。Ａ委員さんいかがでしょうか。

（Ａ委員）
これ，非常に迷うところですね。しかし，ボランティアの方たちが非常によくやってくれているということは十分分かるんですが，それが結果として十二分かと言うと，まだまだこれから特に婚活っていうのは非常に大事なことだと思うんですよね。もちろん行政ができることっていうのは当然限界があります。せいぜい出逢いの場を作るだけであって，それからあとは，これはまさに基本的人権に関わる問題ですのでね。でも，これからまだ研究の余地があるんじゃないかと思って，私はＢでもいいのではないかなと。もし，一生懸命やっているっていうことで判断するんだったら，全部Ａになってしまうので，やっぱり担当課がそれぞれ一生懸命やっているという熱意と同時に，数字のいろんなバランスで，結果っていうのは，評価っていうのは出るものだと思いますから，私はＢでいいと思います。

（会長）

分かりました。いかがでしょうか。やっているけども，評価としてはＢのままということでよろしいでしょうか。はい，ではそのままとさせていただきます。

最後に，評価を一応確認いたします。変更のあったところのみ確認していきたいと思います。変更したのは，まず基本目標３の事業の番号で言いますと，58番「はぐくみ支援企業認証事業所数」，こちらがＣからＢに変更になりました。そして基本目標４の69番，こちらがＣからＢへ。そして70番，こちらがＣからＢと。この３つの事業につきまして，評価が変更になったと。それ以外は，評価案のとおりということでよろしいでしょうか。はい，それではそのように決定させていただきます。

次に，総合的な観点からの意見，提言をお願いしたいと思います。総合戦略について，ここまで112の事業についてＡＢＣ評価を行ってきたわけですが，基本目標ごとに見て，こういうことに重点を置くべき，あるいはこのような観点を追加すべきなど，意見，御提言をいただければと思います。

まず，基本目標1「新しい人の流れづくり」についてでございます。まず口火を切っていただくということで，総合戦略とこの行動計画っていうのは重なるところが多かったりいたしますので，まず行動計画の評価案を作成いただきましたＤ委員さん，もし御意見があればお願いいたします。

（Ｄ委員）

基本目標１に関して，先ほどもちょっと言った部分もあるんですけれども，やっぱりｖｓ東京の文脈のところで言うと，やはり人口の問題が大きなテーマだと思います。人口の問題を考えたときには，子育てとか出生率を上げるというそちらの側面も当然重要で，この基本目標のところとはちょっと違いますけれども，やはり雇用の問題が一番大事かなというふうに思います。

ただ，雇用の問題は大事だけれども，前のときにもちょっとお話したかもしれませんが，行政ができる範囲というのは，さっきの結婚の話も近い部分があると思いますけれども，強制的に「ここの会社にこの労働者が就職せえ」というわけにはいかないと。当然その企業側のいろんな事情もあるし，労働者側の事情があるからということになると，その数値目標を掲げる必要もあるし，そのために努力する必要もあるけれども，結果としてそれがうまいこといくと言ったらあれですけれども，思っているようなストーリーになるかどうかっていうのは非常に難しい。難しいけれども，一番大きな『とくしま回帰』総合戦略という文脈，それから人の流れという，この基本目標１のところで言うと，やはり雇用の問題だと。

雇用の問題で言ったときには，先ほどもお話したように，徳島出身の高校生か大学生か分かりませんけれども，学生がそのまま徳島の企業に就職する。あるいは，大学であったり，就職で一旦外に出た学生をいかにしてＵターンで戻ってきてもらうかと。もう１つは，高齢者と言うか，リタイア世代にもっと帰ってきてもらうと

いう話もあるかと思いますが，とりあえずは若者層ということだと思いますので。Ｉターン，Ｊターンも力は入れるべきだとは思いますが，基本的にはＵターンが一番ウェイトが高いんじゃないかなと思います。

ただ，具体的にどうすればいいかというところについては，これは徳島県も当然努力されておりますけれども，東京以外の全ての都道府県が全く同じことを考えていると思います。外国人でなければ，日本人のそれなりの年齢層の労働者の取り合いになるということになると，他の県もがんばっている状況で，徳島県はそれ以上に「うちの県に就職してください」という話になると，もっとがんばる必要が出てくるという側面になるので，非常に難しいことだと思いますけれども，より一層努力していただければなと。答えにはならないですけど，あくまで意見としてということで，そう思います。

（会長）

他にもしありましたら，いかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｂ委員）

関西圏と徳島の結びつきをどうするかっていう，先ほども議論がありましたけれども，「ｖｓ東京『とくしま回帰』総合戦略」で，対東京との関係なんですけど，人口が増えてますのは，例えば福岡市は，ｖｓ東京ではなくてｖｓ大阪らしいですね。大阪は，ｖｓ東京ですけど，その意味では，関西広域連合の中で，様々な施策の連携もやっておりますから，経済的にも，やはり関西圏をもう少し雇用の面や経済的な面も含めて，力点を置いたらどうだろうかというふうに思っています。

特に今，徳島の場合は関西圏に非常に流出しておりますよね。神戸が近くなったって言って，神戸に買物に出かける徳島の人は圧倒的に多いわけです。そういう意味では，地元の関西の所に，どういうふうにくさびを打つのかというふうなことで，ｖｓ東京も必要なことで，基本方針がそうなっておりますから，そこもしっかりやっていただくというふうなことと，やはり地元の徳島から関西に向けて，どう新たに発信するか，こういうことで意見としてさせていただきたいと思います。

（会長）

ありがとうございました。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では続きまして，今度は基本目標２「地域における仕事づくり」についてでございます。こちらも引き続きＤ委員さん，いかがでしょうか。

（Ｄ委員）

こちらの方も，特に１番目２番目そうですけれども，行政ができる部分っていう産業振興等に関して，あるいは経済活性化に関して，行政部門，あるいは公共部門ができる役割というのは，限界があるっていうのは分かった上でのコメントをちょ

っとさせていただきます。

基本の方向としては，今されている，あるいは計画に上がっている方向でいくということで，大きな問題はないと思いますので，その方向で進めていただいたらいいかと思います。ただ，先ほどの輸出の金額とかっていうところ，ああいう「ものづくり」に力を入れる部分は力を入れますけれども，どうしても今後の徳島というより，日本全体の問題を考えたときには，第二次産業も大事ですけれども，基本的には，やはり第三次産業が重視すべきになってくるし，なおかつそこの付加価値を上げていくしかしょうがないっていうのは，徳島というより日本全体の１つの答えになっているかと思います。

その文脈で言うと，これも全ての都道府県が努力してますけれども，１つは，物を輸出するんじゃなくて人に来てもらうっていう観光っていうところについては，もっとより一層力を入れていくべきではないかなと。そのときには，やはり宿泊施設の問題，それから徳島の観光をアピールする１つの要因としてのコンテンツが大事ですけれども，阿波おどりっていうのがあるわけです。これをいかに生かしていくかという，お盆期間中の４日間だけではないような形で，いかにしてコンテンツを日本あるいはアジア圏中心だと思いますけれども，世界に発信していくことができるのかという，そこが１つの側面になるのかなと。それ以外の一次産業，二次産業も当然大事だと思いますけれども，第三次産業に特に力を入れていただきたいなというようなことは思いました。

（会長）

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

一言，僕からですけど，これは基本目標１の方でも関連するかもしれないんですけど，仕事づくりというところで，雇用の確保っていうのは，確かに従来あるんですが，そうではなくて，自分で仕事を作れると言いますか，技術を持っている人たちが，起業をする場として徳島を選んでもらえるというようなこともあるのかなと思いました。

本社の誘致といっても，自営業で１人でやっていれば，その１人が来れば本社みたいなもんなんですけども，人というのも，「雇ってくれる会社があるな，いいなって」という人に来てもらうのではなく，ここで何かやりたいな，こういうことしたいなっていうとき，「立ち上げるのに，徳島はすごくやりやすいんだ」というふうにもしなれば，最初起業したり，何かそこまでいかなくても，自営業的に何かやるときに，徳島でやってもらえる。そういう人が，例えば徳島に来る。そういう人が，徳島で自分の仕事を作るっていうふうにしてくれるっていうのもいいのかなと思いました。

雇う雇われるというだけでなく，特に今後の人の流れから言うと，何かそういうところがだんだん大きくなっていくのかなと思ったりしました。そのときに，幾つかあるうち「徳島は結構やりやすい所だな」というふうに，そういうアピールの仕

方もあるのかなと思いました。

（Ｆ委員）
今，会長のお話を伺って，Ｄ委員からのお話でもあったんですが，ｖｓ東京でいくんだったら，やっぱり徳島は一次産業だと思うんです。一次産業と自然を売り出すっていうのが，本来の基本ではないかなというふうに思います。もちろん第三次産業も第二次産業も大事なんですが，一次産業に力を入れていただいて，この環境と資源と，特に南の方の観光，きれいな海と，サーフィンの方に言わせれば，めったにない遠浅の海だそうです。和歌山とかではサーフィンはできないらしいですので，そういう面も含めて，徳島のある資源と自然と一次産業っていうのにもっと力を入れてくださるのが，一番難しいとは思うんですけれど，そこがやっぱりｖｓ東京の本来でないかなっていうふうに思いますので，そういう面も合わせて，会長のおっしゃる起業も含めてよろしくお願いいたします。

（会長）
そこは，あえてけりを付けずに，全部力を入れていただけるようにお願いして，基本目標３にいきたいと思います。それでは「結婚・出産・子育ての環境づくり」ですが，いかがでしょうか。Ｅ委員さんお願いします。こちら行動計画の評価案を作成いただきましたので。

（Ｅ委員）
結婚・出産・子育てどれも，それもしながら働くっていうことが，今結構増えてきているんですが，働き方改革っていうのが国全体で議論されている中で，暮らし方とか働き方とかっていうのが，少しずつではあるんですが変わっていこうとしていると。この状況下で，結婚・出産・子育てについても，考え方というのは少しずつ変わっていくと私は思っています。
では，どうすればいいかって言うと，生き方とか，それに関する考え方っていうのは，本当にスピーディーにキャッチしていただいて，対応していくってことが必要なんですけれども，それとともに，変化していく中への対応というだけではなくて，ではどう変化するかなっていうことをちゃんと予測していって，先に手を打っておく。全部こうなっているから，ここに対応していこうっていうんじゃなくて，予測していって対応というか，何かの取組みを行っていくっていうことが，ここからは本当に重要なことになっていくと思います。
先ほど，Ｄ委員からもお話があったように，やっぱり地方の中で取り合いになっていくっていうところで，どんなに先進的なことというか，面白いこと，新しいことができていくかっていうところで強みが出てくるかなと思いますので，そういった予測をして，何かを取り組んでいくっていうことが，今後地方にとってすごく必要になってくるかなというふうに思いました。

この基本目標３の，皆さん議論なさっている中で私が感じたのは，特に子育てっていうところの環境の整備とか，サポートについては，本当に非常に重要な課題であると思っておりますので，引き続き積極的に取り組んでいただけたらいいかなというふうに思いました。

（会長）
いかがでしょうか。他に，この基本目標３につきまして，総合的な観点から御意見，御提言。はい，お願いします。

（J委員）
今，Ｅ委員がおっしゃったように，この分野に関しては，非常に考え方が多様になってきていると思っていて，それだけに，この現場は対応が大変かなと思います。
特に，先ほど話にありました出逢いの場を作るというのも，現場のボランティアさんが非常にがんばられているということなんですけれども，そういった現場でがんばられている方の現場の意見を，どんどん早く対応していかないといけないと思うんです。
特に，私全体的に，今後の取組方針のところに，もう既にされているとは思うんですけど，改めて現場の人との戦略会議の場を持つとか，そういうことを書かれたらどうかなと。特にこの分野に関しては，現場の方が大分がんばられているような気がするので，そういった場を県としては積極的に作っていくんだというふうなことを，今後の取組方針に入れられたらいいのかなと思いました。

（会長）
はい，ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（Ｂ委員）
若い世代の正規雇用の更なる拡大，こういうふうに項目を付けて，具体的な施策になってて，非常にいいことだと思いますけれども，有効求人倍率が１倍を超える状況になって，したがって仕事はいっぱいあるんだという印象を社会的な風潮のように，知事も「有効求人倍率が高い高い」って言ってますので，だから中味はどうなのかと。正規雇用と非正規雇用の求人倍率がどうなっているのかというふうなことは，やっぱり重要なことだと思うんですよね。
その意味では，子供の貧困率が高まっているとか，なかなか結婚できない理由に，収入が取れないというような問題などもあったりして，やはり若い世代の正規雇用，しっかりした雇用ができてないという実態は，やっぱり見受けられるんではないかというふうに思います。その意味では，この総合戦略の中で，若い人たちの正規雇用をしっかりと施策をして位置付けて，有効求人倍率は高いんですけれども，その中での非正規雇用がどのぐらいになって，正規雇用がどのぐらいの求人倍率なのか

というふうなことも明らかにしながら対応していただいたらというふうに思います。

（会長）
はい，ありがとうございました。他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは続きまして，今度は基本目標４「活力ある暮らしやすい地域づくり」でございます。Ｅ委員いかがでしょうか。

（Ｅ委員）
こちらも非常に広範囲にわたるところではあるんですけれども，その中で一番初めに上げられている「徳島版地方創生特区」っていうのは，本当にすばらしい取組みだと思っています。徳島の各地域が個性を持って，更にそれを生かして地域の魅力っていうのをより向上させていっているかと思います。
そうすると，先ほどの人の交流，移動とかっていうのも含めて，地域の魅力を増していって惹きつけるっていうことにもつながっていくっていうのが１つと，あとは地域の活性化って何かって考えたときに，何か目標があってプランを立てて，それが実行されて結果として出てきたものが地域の魅力につながったり，活性化につながるっていうだけではなくて，それに取り組んでいくっていう熱そのもの，取組みを行っている自体が，地域の活性化につながっていくというふうに多分考えられると思うので，この特区を設定して，それに対して各地域の人たちとか，地域そのものがもっともっと盛り上がっていったらいいかなっていうふうに思いました。
あとは，いろんなことが掲げられているんですけれども，女性の活躍の場とか若者の活躍の場っていうのは，徳島は特に多くのメニューが用意されているかと思いますので，阿波女にとっても若者たちにとっても活躍しやすい地域であるかなというふうに感じております。
あと，いろいろ上げられている中でちょっと気になったのは，ネットワークの強化というところで，地域の連携とか人的なとか産業的な連携っていうのは，少しずつではあるんですが進んでいるような感じはしてるんですけれども，予算の制約がかなり大きいかと思うんです。ハード面の交通のネットワークの形成については，まだまだ厳しい状況で，「もうちょっと予算があったらいいのにな」と多分皆さん思っているかと思うんですけれども，ちょっと厳しい状況にあるのかなと思っています。
そんなことは言いながらも，最近の若い子たちってすごい徳島が好きとか，徳島に愛着がある，誇りを持っているっていうことを感じてますので，そういうことに対しては，とっても素敵なことで心強いなというふうに思います。こんなふうに，今の若い子が徳島が好きっていうふうに育っているような教育っていうのも引き続き行っていただいて，徳島を地元で生まれた子たちと，それとまた魅力を増してきていただいた方々，みんなで盛り上げるようにできたらいいかなっていうふうに思います。

（会長）
はい，ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい，お願いします。

（Ｄ委員）
ここの基本目標４も含めてと言うか，もうちょっと大きな話かもしれないですけど，全体的に県がやる仕事とか，あるいは行政がやる仕事っていう部分が相対的に増えてきていると。それは，家計部門で言えば，世帯数が減ってきているとか，単身世帯が増えてきているということにもなってきているし，それは今だけの話ではなくて，今後もっとそうなると。つまり，自助の部分でできることは，今以上に今後将来的にはもっと限界が出てくると。それから共助の部分に関しても，地域コミュニティーの問題は当然重要だけれども，これも現状でもしっかりできている地域もあるだろうけど，多分平均的には右肩下がりになってしまっていくと。
そうありながら，県民の満足度というか，豊かさとかという部分を，所得以外の側面でどうやって補っていくかという話になれば，当然やらなければならない仕事の部分は行政にかかってくると。「じゃあ，行政が全部やれ」っていう話になると，人の問題とか予算の問題は，どこの自治体であったとしてもなかなか厳しい状況になると。となったら，本来やらなければいけないのは，この仕事は本当に行政がやらなければならない仕事であるのか，それともやってもやらなくてもいい仕事なのかというところになるはずなので，本当は多分一番それが重要で，ただその内容は，ここの会議でやる話ではないですから，「ここに出てきている問題は全て大事ですよ」という話になるから，それに関する評価をすると。
だけど本当だったら，今日の項目でも100以上ありますし，それから前回まででも，もっと数が多いと。それを同じウェイトとして，一つ一つできているかチェックするっていうのは，なかなか難しい話かなっていうのは思うんです。ただその優先順位を横に置いておいたとして，行政がやらなければならないと言ったとしても，先ほど言ったように限界があるけども，それは行政がやらなかったら，県民にとっては非常に，場合によっては生死に関わる問題なんかも出てくる話になると。
となったら「じゃあどうするか」っていうところが，多分一番難しい問題になるんですけれども，そこの部分に関しては，今日の議論のところでも，先ほどの婚活のところでボランティアの方ががんばっているとか，他のところでもあったと思いますけれども，生きがいづくり推進員とかっていう数字があったりすると。だけれども，それ以外もあったと思います。企業に関しても，認定の企業っていうところもあったと思いますけれども，いわゆる公務員でない人が，あるいは既存のＮＰＯの方でもいいですけれども，公務員として公の仕事をやっている。つまり行政がやるだけではなくて，いわゆる民間人であるけれども，やっている仕事としては，公の仕事をやっているっていう人をどうやって巻き込んでいくかという話。１つは，既存でやっている人とうまくコミュニケーションを取りながらやっていくという話。

それから，議論であったと思いますけれども，やっているんだけれども，それをきっちり行政側が補足してないと。だから数値目標でいった場合には，そういった数値がほとんど達成されてない。達成されてないのは，人が少ないから達成されていないのか，それともやっている人はいるんだけれども，補足してないから達成してないのかっていうのは，多分ちょっと分かりにくいです。少なくともやっている方がいるんだったらそういう方と，ＮＰＯのようなある程度組織的になっている場合だったら補足しやすいと思いますけれども，個人でやってる人はなかなか難しいので，そういった人を巻き込んでいくかと。

もう１つは，公務員がやっているわけではないけど，公の仕事をやっている人材を行政がどうやって育成していくかと。多分ここでやっていかないと，全てを行政がやればいい，県がやればいいっていう議論も，これもまた辛いと思いますので。もっと言うと，県庁の職員の方も非常によくされていると思うんですけれども，本来だったら，ここの部分をもっとやれば，もっとこの数値目標の数字が上がるんだけれども，こっちもやらないけないし，こっちもやらないかんから，なかなかそういうような数字が上がってこないっていうテーマもあると思います。

そこは，本来だったら優先順位はもっと付けるべきではないかと。付けない部分については，「それはやらない」っていう選択肢もあるし，やるんだったら，この部分は行政がやるけど，できるだけ民間部門の方でやっていただけないかと。やる人がいないんだったら，そういう人をいかに育てていくかっていう部分で，直接関与するわけではないけれども，最終的には県民にとっての満足度が，そんなに低下していない状況にもっていくっていうような制度設計を，５年とかっていうような短い期間で考えるんじゃなくて，20年30年，それは最初から話が出ている人口が減ってくるとか，あるいは人口の平均値である高齢化が進んでいく中で，どうやって県が経済的な意味合いではない側面での豊かさみたいなもの，満足度を維持できるかっていう部分になると思います。

最終的には，人材育成というようなところになるのかなというふうに思いますし，既にいる人とうまく協調していくっていうところに関しても，努力みたいなことは，数値目標のところで数字が特に低いので，もっと力を入れていかれたらいいんじゃないかなっていうふうに思いました。

（会長）

はい，ありがとうございます。他にありますでしょうか。どうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは，いろいろ貴重な御意見，御提言を頂きましたが，時間の都合もありますのでこの辺りで終了したいと思います。委員の皆様には議事の進行に御協力を頂きありがとうございました。最後に評価結果の取りまとめ等につきまして，事務局から説明をお願いします。

（事務局）
本日御議論いただきました評価結果につきましては，事務局で整理をいたしまして，御確認を頂いた上で，地方創生“挙県一致”協議会に提言をしてまいりたいと考えております。また，本日の会議録につきましては，事務局で取りまとめた上，会長に御確認を頂いた上で，ホームページなどで公表をさせていただきたいと思います。

（会長）
以上，事務局から説明がありましたが，そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。それでは，異議もないようですので，そのようにさせていただきます。
以上をもちまして，本日の議事を終わらせていただきます。議事の進行に御協力いただきありがとうございました。マイクを事務局にお返しします。ありがとうございました。

（監察局長）
以上をもちまして，第４回県政運営評価戦略会議を閉会といたします。長時間本当にありがとうございました。